

筆者の意図をとらえ、自分の考えを発表しよう

教材「時計の時間と心の時間」(一川 誠)

フレ教材「笑うから楽しい」(中村 真)

本単元で育成する資質・能力

課題発見・解決力

令和元年6月5日(水) 第5校時

第6学年2組 22名

研究主題

対話を機能させ 考えを深める学びづくり

～ 言葉による見方・考え方を働かせ、学び合いのある授業を通して ～

1 単元観

【学習指導要領との関連】

本単元は、第5学年及び第6学年「C読むこと」の内容(1)ウ「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。」を受け、事実と意見を読み取り、筆者の主張を的確にとらえ、事例と自分たちの経験を比較することを通して、自分の考えを明確にしながら読むことができる力をつけることをねらいとしている。

【本教材の特性】

本教材は、日常生活において意識しない日はない、「時間」を題材にした双括型の説明文である。筆者は、時間には「時計の時間」と「心の時間」の2つがあるとし、『心の時間』を頭に入れて、『時計の時間』を道具として使うという、『時間』と付き合う必要があると主張している。

主張に説得力を持たせるために、「心の時間」が持つ特性を、影響と人それぞれの感覚の違いという視点から、いくつかの事例を挙げて説明している。これらの事例があることにより、心の時間に目を向けることの大切さが見えてくる文章構成となっている。児童にとって身近な話題であり、自らの経験と照らし合わせながら読むことができ、筆者の考えに対する自分の意見を持ちやすい教材である。

2 児童観

【既習単元での実態】

本学級の児童は、前学年で説明文教材に頭括型・尾括型・双括型(両括型)の基本三文型があることを学習し、それを意識して読む構えは概ねできている。また、筆者の意図に着目して説明文を読み取る経験も積んでいる。

【国語科アンケート調査結果】

国語科アンケートにおいて、説明的な文章の学習では「筆者が伝えたいことは何かを考えながら読んでいる」という項目に「よくあてはまる」と答えた児童は47.6%であり、「自分の考えと比べながら読んでいる」については57.1%であった。このことから、自分の考えと比べながら筆者の主張を読み取ることに課題があると感じている児童がいることが分かる。

【対話を機能させた学びの実態】

前述のアンケートで「ペアやグループの学び合いでは、いろいろな考えが出るように声をかけ協力している」の項目に「よくあてはまる」と答えている児童が42.9%であった。このことから、グループでの学び合いに消極的な児童が一定数存在していることが分かる。

【分析】

これらのことから、本学級の児童には、筆者の主張を読み取る際に、筆者が取り上げている事例の意図に目を向けさせて丁寧に読み取ったり、自分の考えを明確にしてグループ学習を行ったりしながら、友達の意見と比べ、考えが深まっていく経験を積み上げることが重要であると考えられる。

3 指導観

(1) 本単元のねらいを達成するための手立て

本単元では、特に以下の点に留意して指導を展開する。

- ① 単元のゴールとして、「筆者の主張に対する自分の考え(納得度)を書く」とした。筆者の主張に読者としてのどの程度納得できるか、根拠(文章構成や述べ方、筆者の挙げた事例)を挙げさせながら、この説明文に対する自分の考え(納得度)を具体的に書かせる。
- ② 筆者の主張を的確にとらえるために、筆者がどのような文章構成で考えを述べているのかを理解させたい。特に、説明文の基本三文型を意識させ、筆者の主張を読者に効果的に伝えるための事例であるかどうかという視点で、説明文を読み取りながら、筆者の主張をよりの的確にとらえることができるようにする。
- ③ 筆者の主張に対する納得度を交流する中で、多様な視点に触れることで、対話することの面白さを味わわせるとともに自分の考えを広め深めるようにしたい。

(2) 学習に用いる言葉・表現・語彙

学習に用いる言葉

説明文の基本三文型（頭括型・尾括型・双括型） 筆者の意図・主張 要旨（筆者の中心となる考え）
重要語句
要点（形式段落における中心文） 文章の構成 納得度

着目させたい表現・語彙

重要語句（共感・影響・特性・時間・時計の時間・心の時間） つなぎ言葉（ここで、そして、ここ

(3) 対話を機能させる学び合いに向けた手立て（聴く・つなぐ・もどす）

- 理由・根拠を意識して友達の考えを聴くことを意識させる。
- 友達の考えに対して質問したり、それに答えたりすることで、個やグループの考えをつなぐ。
- 出てきた考えの相違点や共通点を焦点化してもどすことで、自分の考えを深められるようにする。

(4) 個別の支援の対象となる児童への手立て（別紙参照）

4 単元の目標

- 筆者の主張に関心を持ち、それに対する自分の考えを持ちながら読もうとしている。【関心・意欲・態度】
- 事実と感想・意見などとの関係をとらえながら文章の内容を的確に読み取り、筆者の考えと比べながら自分の考えを明確に持つことができる。【読むこと（1）ウ】
- 文や文章には色々な構成があることについて理解する。【伝国（1）イ（キ）】

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○筆者の挙げる事例の内容や筆者の主張に関心を持ち、自分の考えを持とうとしている。	○筆者の主張と根拠を読み取り、筆者の表現の工夫から、筆者の意図を読み取っている。自分の経験と重ねて考えることで、内容を具体に示してとらえることができる。	○筆者が結論に至るまでの過程について、文章の構成を理解している。

6 単元で育成したい資質・能力

	資質・能力	目指す姿
スキル	課題発見・解決力	「時計の時間」と「心の時間」について、文章構成や述べ方、筆者の挙げた事例を根拠にして筆者の主張を見つけ、それに対する自分の考えを明確にしている。

7 単元計画

(1) 単元構想図

筆者の意図をとらえ、自分の考えを発表しよう 教材「時計の時間と心の時間」 フレ教材「笑うから楽しい」

課題発見 (1)

- ・「笑うから楽しい」で学習したことは使えるかな。
- ・「時計の時間」と「心の時間」、いったいどういうことなのだろう？
- ・本当にみんなも「心の時間」の進み方は変わるのかな。
- ・なぜ、時間の進み方について感じ方が違うのだろう。
- ・この説明文を読んでみて、「なるほど」と思うこともあるけど、「そうかな？」と疑問に感じることもあるなあ。



筆者の考えに対して、自分の考え（納得度）を発表するために読み進めよう。

課題の設定 (1)

筆者の主張は何だろう。そして、そのことを伝えるためにどんな工夫をしているのだろう。

情報の収集 整理・分析 (5)

教材文①「笑うから楽しい」

三部構成を参考にして、説明文の基本三文型のうち、どれになるかを読む。

双括型であることを基に、初めと終わりの各段落に共通する重要語句を用いながら要旨をまとめる。

筆者はどのような事例をもとに考えを述べているか、また事例を挙げることの効果や内容の有効性について考える。

教材文②「時計の時間と心の時間」

教材文「笑うから楽しい」を参考に説明文の基本三文型を明らかにして筆者の主張をとらえる。
(本時)

筆者の主張や事例に対して、自分はどうか考えるか、思い当たる体験はないか、考える。

筆者が自分の考えを読み手に納得させるためにどのような工夫をしたのか考える。

まとめ・振り返り (2)

- ①筆者の主張に対する自分の考え（納得度）を書く。
- ②友だちと互いの考えを交流し合い、読み手を納得させる文章、説得力のある文章を書くためにはどんなことが大切であるかを振り返る。



(2) 単元計画 (全9時間)

次	時	・学習活動 資質・能力の重点	評価観点			◇評価規準 (評価方法) ★資質・能力の評価 (評価方法)
			関	読	伝	
第一次	1 2	教材「笑うから楽しい」 ・「楽しいから笑う」という体験と結びつけて、なぜ筆者がこのような題にしたのかという視点で、筆者の意図について考える。 課題発見・解決力		○		◇題名読みを通して内容に興味を持ち、進んで教材文を読もうとしている。 (行動観察、ノート)
	3	教材「笑うから楽しい」 ・筆者の主張と事例の関係をつかむ。		○		◇事例のまとまりをとらえ、文章構成をつかむことができる。(ノート)
第二次	4	教材「時計の時間と心の時間」 ・教材を読んで感想を書く。	○			◇自分の考えを持ちながら文章を読もうとしている。
	5 本時	教材「時計の時間と心の時間」 ・内容の大体を読み、双括型の説明文であることをおさえながら、大まかに主張をとらえることができる。 課題発見・解決力		○		◇筆者の主張が書いてある段落や事例のまとまりをとらえ、双括型の説明文であることがわかり、大まかに主張をとらえている。 ★課題解決に向けて、ペアやグループで考えを交流することで、根拠を明らかにして自分の考えを深めようとしている。 (行動観察・ノート)
	6 7	・筆者が挙げている事例を読み取り、比較する。		○		◇筆者が挙げている事例を読み取り、自分の知識や経験と関係づけて読み深めたり、それぞれの事例の特徴を読み取ったりすることができる。 (行動観察・ノート)
第三次	8	・筆者の主張に対する自分の考え(納得度)を書く。			○	◇筆者の主張に対する納得度を、根拠を挙げて表現することができる。(ノート)
	9	・筆者の考えや述べ方に対する自分の考えを友達と交流する。		○		◇自分の知識や経験と関連づけながら友達と考えを交流する中で、「時計の時間」と「心の時間」を使い分けることが筆者の言う「ちえ」だと理解している。 (行動観察・ノート)

9 本時のねらいとポイント

(1) 本時の目標

- ・双括型の説明文であることをとらえて、大まかに筆者の主張をとらえることができる。

【読むこと(1)ウ】

(2) 本時の評価規準

- ・筆者の主張が書いてある段落や事例のまとまりをとらえ、双括型の説明文であることがわかり、大まかに主張をとらえている。

(3) 準備物 (ホワイトボード)

(4) 学習の展開 (本時 5/9)

分	学 習 活 動	○主な発問や指示 ・予想される児童の反応	☆指導上の留意点 ◆個別の支援対象児童への手立て ◇評価規準(方法)★資質・能力
8	1 初発の感想から、本文中に繰り返し出てくる言葉について注目する。	○「時計の時間」と「心の時間」という言葉が繰り返し出ているという感想がありました。何回使われているのでしょうか。 ・「時計の時間」が9回、「心の時間」が17回出てくるよ。心の時間の方が多いから、筆者は「心の時間」について伝えたいのかな。	☆初発の感想から、繰り返し使われている語句についてふれ、全体でその数を数えることで、その後の発問に対して意欲的に考えられるようにする。 ☆繰り返されている言葉を数えることをきっかけに必然性のある課題設定の場を作る。
2	2 本時の学習課題を確認する。	【めあて】 筆者が一番伝えたい主張は何だろう？	
10	3 自分の考えを発表する。	○筆者は「心の時間」の大切さを読み手に伝えたいのかな。 ・筆者は「心の時間」の方を伝えたいのだと思います。理由は「心の時間」の数が多いからです。	☆どうしたら解決できそうか、見通しを持たせる。 ☆事例についての発言が出てきたら「いくつの事例があるか」を全体で確認する。 ☆①②⑧段落のどれかを根拠とする発言が出たら、「他に根拠にした段落はあるか」と切り返しながらか、筆者の主張がどの段落に書かれているかを意識しながら思考させ、双括型であることを捉えさせる。
20	4 「時計の時間」と「心の時間」のどちらが大切か話し合い、筆者の主張を見つけてまとめる。	○筆者は、「時計の時間」と「心の時間」のどちらが大切だと読み手に伝えたいのだろう。 <u>時計の時間</u> ・七段落に『時計の時間』が、私たちにあっていかに不可欠なものであるかが分かります。」と書いてあり、不可欠という強い言葉で言い切っているから。 <u>心の時間</u> ・事例が四つあって、どれも「心の時間」について書いてあるから。 ・私たちは「時計の時間」は知っているけれど「心の時間」は知らないから。 <u>どちらも</u> ・一段落と八段落に、「二つの時間と共に生きている」と書いてあるから。 ・八段落に「そんな私たちに必要なのは、『心の時間』を頭に入れて、『時計の時間』を道具として使うという、『時間』と付き合ううえなのです。」とあるから、両方とも大切である。	◆教材「笑うから楽しい」の学習を想起させ、筆者の考えがどこに書かれているかを見つけることを意識させ、筆者の主張を読み取る。 ☆本文の言葉を使って発言した児童に、自分の言葉に置き換えて発言できるように促し、理解を深められるようにする。 ☆ペアや、グループ、全体で交流をする。友だちの意見を聞きながら、思考が深まるようにする。 ★課題発見・解決能力 ◇筆者の主張が書いてある段落や事例のまとまりをとらえ、双括型の説明文であることがわかり、大まかに主張をとらえている。 (行動観察・ノート)

